

洗足学園音楽大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学大学院のカリキュラム・ポリシーは次の通りです。

大学院

【教育課程編成の方針】

- (1) 教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。
- (2) 教育課程の編成に当たっては、専門分野に関する高度な専門的知識、演奏・表現能力あるいは研究能力を修得させるよう適切に配慮する。

【教育課程実施の方針】

- (3) 「修了認定・学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかについて、学生が理解しやすいように配慮する。
- (4) 学生の主体的で活発な学修意欲を促進する立場から、社会的実践の機会を積極的に設定する。
- (5) 成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の主題・到達目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、総合的・多面的な成績評価を実施する。
- (6) 修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査体制を充実させ、厳格な審査を行う。

音楽研究科

音楽研究科の教育課程は、少人数・双方向型の実践的な教育を基本とし、「専門必修科目」「専門選択科目」「共通選択科目」を通じて「修了認定・学位授与の方針」に定める力を身に付けることができるように編成し実施する。

【教育内容】

- (1) 「専門必修科目」では、専攻・コースの専門分野に関する高度で専門的な知識や能力を身に付ける。個人レッスンまたは少人数による学びを中心とする。
- (2) 「専門選択科目」では、専攻・コースの専門分野に関する応用的な知識や能力を身に付ける。グループによる学びを中心とする。
- (3) 「共通選択科目」では、専攻・コースの枠を超えた横断的・多面的な学びにより音楽的素養を身に付け、その音楽的幅を広げる。

【教育方法】

- (4) 主体的な学びを保証するためのきめ細かな履修指導を行う。
- (5) すべての授業科目において授業と連動した活発な学修を促進するため、シラバス等を通じて事前・事後の学修課題を明確化し、単位の実質化を図る。
- (6) 修了時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、カリキュラムマップで「修了認定・学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸知識・能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮する。
- (7) 学修ポートフォリオの導入により、学生自らが目標を立てて達成度を確かめられるようにする。
- (8) アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れることを基本とする。
- (9) 研究指導教員と研究指導補助教員による複数教員指導体制のもとで、修士論文または特定の課題の研究指導を行う。

【評価】

- (10) GPA制度に基づく厳格な成績評価を導入することにより、学びの質を向上させる。
- (11) 実技試験においては複数の採点委員により公正な評価を行う。
- (12) 専門実技については、様々な形態による公開の成果発表の機会を設け、実践的な体験を通じて学修成果の向上を図る

器楽専攻**【教育内容】**

- (1) 「専門必修科目」では、コースの専門分野に関する高度で専門的な知識や能力を身に付ける。個人レッスンまたは少人数による学びを中心とする。
- (2) 「専門選択科目」では、コースの専門分野に関する応用的な知識や能力を身に付ける。グループによる学びを中心とする。
- (3) 「共通選択科目」では、専攻・コースの枠を超えた横断的・多角的な学びにより音楽的素養を身に付け、その音楽的幅を広げる。

【教育方法】

- (4) 主体的な学びを保証するためのきめ細かな履修指導を行う。
- (5) すべての授業科目において授業と連動した活発な学修を促進するため、シラバス等を通じて事前・事後の学修課題を明確化し、単位の実質化を図る。

- (6) 修了時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、カリキュラムマップで「修了認定・学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸知識・能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮する。
- (7) 学修ポートフォリオの導入により、学生自らが目標を立てて達成度を確認できるようにする。
- (8) アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れることを基本とする。
- (9) 研究指導教員と研究指導補助教員による複数教員指導体制のもとで、特定の課題の研究指導を行う。

【評価】

- (10) GPA制度に基づく厳格な成績評価を導入することにより、学びの質を向上させる。
- (11) 実技試験においては複数の採点委員により公正な評価を行う。
- (12) 専門実技については、様々な形態による公開の成果発表の機会を設け、実践的な体験を通じて学修成果の向上を図る

声楽専攻

【教育内容】

- (1) 「専門必修科目」では、専門分野に関する高度で専門的な知識や能力を身に付ける。個人レッスンまたは少人数による学びを中心とする。
- (2) 「専門選択科目」では、専門分野に関する応用的な知識や能力を身に付ける。グループによる学びを中心とする。
- (3) 「共通選択科目」では、専攻・コースの枠を超えた横断的・多角的な学びにより音楽的素養を身に付け、その音楽的幅を広げる。

【教育方法】

- (4) 主体的な学びを保障するためのきめ細かな履修指導を行う。
- (5) すべての授業科目において授業と連動した活発な学修を促進するため、シラバス等を通じて事前・事後の学修課題を明確化し、単位の実質化を図る。
- (6) 修了時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、カリキュラムマップで「修了認定・学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸知識・能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮する。
- (7) 学修ポートフォリオの導入により、学生自らが目標を立てて達成度を確認

できるようにする。

- (8) アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れることを基本とする。
- (9) 研究指導教員と研究指導補助教員による複数教員指導体制のもとで、特定の課題の研究指導を行う。

【評価】

- (10) GPA制度に基づく厳格な成績評価を導入することにより、学びの質を向上させる。
- (11) 実技試験においては複数の採点委員により公正な評価を行う。
- (12) 専門実技については、様々な形態による公開の成果発表の機会を設け、実践的な体験を通じて学修成果の向上を図る

音楽教育学専攻

【教育内容】

- (1) 「専門必修科目」では、専門分野に関する高度で専門的な知識や能力を身に付ける。個人または少人数による学びを中心とする。
- (2) 「専門選択科目」では、専門分野に関する応用的な知識や能力を身に付ける。グループによる学びを中心とする。
- (3) 「共通選択科目」では、専攻・コースの枠を超えた横断的・多元的な学びにより音楽的素養を身に付け、その音楽的幅を広げる。

【教育方法】

- (4) 主体的な学びを保証するためのきめ細かな履修指導を行う。
- (5) すべての授業科目において授業と連動した活発な学修を促進するため、シラバス等を通じて事前・事後の学修課題を明確化し、単位の実質化を図る。
- (6) 修了時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、カリキュラムマップで「修了認定・学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸知識・能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮する。
- (7) 学修ポートフォリオの導入により、学生自らが目標を立てて達成度を確認できるようにする。
- (8) アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れることを基本とする。
- (9) 研究指導教員と研究指導補助教員による複数教員指導体制のもとで、修士論文の研究指導を行う。

【評価】

- (10) GPA制度に基づく厳格な成績評価を導入することにより、学びの質を向上させる。
- (11) 論文審査においては複数の採点委員により公正な評価を行う。
- (12) 専門研究については、様々な形態による公開の成果発表の機会を設け、実践的な体験を通じて学修成果の向上を図る

作曲専攻**【教育内容】**

- (1) 「専門必修科目」では、コースの専門分野に関する高度で専門的な知識や能力を身に付ける。個人レッスンまたは少人数による学びを中心とする。
- (2) 「専門選択科目」では、コースの専門分野に関する応用的な知識や能力を身に付ける。グループによる学びを中心とする。
- (3) 「共通選択科目」では、専攻・コースの枠を超えた横断的・多面的な学びにより音楽的素養を身に付け、その音楽的幅を広げる。

【教育方法】

- (4) 主体的な学びを保障するためのきめ細かな履修指導を行う。
- (5) すべての授業科目において授業と連動した活発な学修を促進するため、シラバス等を通じて事前・事後の学修課題を明確化し、単位の実質化を図る。
- (6) 修了時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、カリキュラムマップで「修了認定・学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸知識・能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮する。
- (7) 学修ポートフォリオの導入により、学生自らが目標を立てて達成度を確認できるようにする。
- (8) アクティブラーニングを取り入れた教育方法を取り入れることを基本とする。
- (9) 研究指導教員と研究指導補助教員による複数教員指導体制のもとで、特定の課題の研究指導を行う。

【評価】

- (10) GPA制度に基づく厳格な成績評価を導入することにより、学びの質を向上させる。
- (11) 実技試験においては複数の採点委員により公正な評価を行う。

(12) 専門実技については、様々な形態による公開の成果発表の機会を設け、実践的な体験を通じて学修成果の向上を図る